



首相官邸の講堂

学長 大橋 秀雄

日本学術会議をご存じですか。これは総理府に所属する政府機関ですが、会議を構成する210名の会員は、人文科学、社会科学、自然科学のすべての分野から選挙によって選ばれ、学者の国会ともいわれています。私は機械工学分野の会員に再選され、去る7月25日の任命式で辞令を頂きました。

辞令は、永田町の首相官邸の講堂で、村山富市総理から手交されました。官邸は、組閣のときなどテレビによく出てくるので、ご記憶があるかと思います。意外とこじんまりした煉瓦造りの洋館で、一瞬昔の帝国ホテルの外観を連想させます。その建物の一角にある講堂が、辞令交付の場となりました。

総理を待つ間に講堂を見渡すと、白く高い天井、大きなシャンデリア、装飾セラミックスで縁取った背の高い明かり取り窓、落ち着いたえんじ色のカーテン、等々、そこは西洋の匂いで溢れており、日本らしさの微塵もありませんでした。設計者は誰だろう。帝国ホ

テルと同じライトかしら、ふと疑問に思って前に座っていた建築の内田祥哉先生に伺ってみて、びっくりしました。工学院大学の下元連(しももと むらじ)先生の設計だと逆に教えられたのです。下元先生は、本学建築学科で教えられた後も、理事として学園の運営に尽力され、十年ほど前に亡くなられた方です。本学についての無知ぶりを、はしなくも露呈する結果となっていました。

3年前に同じ場所で辞令を頂いたときは、海部俊樹総理でした。自民党から社会党へ、政治は目まぐるしく変遷し、官邸の主も次々に入れ替わります。それをずっと見守り続けてきた建物には風格が染み着いて、そこに設計者の思いが生き続けています。

良き先生に恵まれてきた工学院大学の伝統。それを新しい器、新装成った超モダン校舎の中でいかに伸ばしてゆけばよいか。下元先生設計の講堂の中で、学長としての責任を改めて噛みしめました。